



森のなかま

2011年 1月号

NO. 33 (継続178)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 島岡 功
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

あけましておめでとうございます。

理事長 島岡 功



鍋割山稜・小丸尾根から霊峰富士とやどりき水源林の山々

皆様には、つつがなく新年を迎えられたことと、お喜びを申し上げます。

昨年、神奈川県で開催されたビックイベント、第61回全国植樹祭2010、及び第39回全国林業後継者大会には、多数の会員が参加し、皆様のご協力により、私達の役目がしっかりと果たせたことに、心から感謝し、御礼を申し上げます。

1字で表現するならば、会員の皆様への感謝、参加の機会を与えて戴いたことへの感謝をこめて「謝」の字を送りたいと思います。

今年は、NPO法人移行4年目を迎えますが、時々、森林ボランティアの原点を振り返りながら、会活動に大きな足跡をしっかりと刻んで行くことを、期待いたします。

新しい年の初めに、会の益々の発展と、会員の皆様のご健勝を、お祈り申し上げます。

やどりき水源林は魅力がいっぱい！！

やどりき森の案内人 植物班の探索トレール

植物班班長 黒澤 隆

やどりき水源林は南北約3km 東西約2km に広がる寄沢の集水域すべてをカバーし、標高は400m から最高点の鍋割山頂1273m に達し、下は寄地区の里山から最上部のブナ帯まで各種の豊富な植生が見られます。

やどりき森の案内人 植物班はこの林内に十数本の探索トレールを開いて調査記録してきましたが、ここではそのいくつかに沿って、やどりき水源林のプロフィールをご紹介します。



雨山のブナ

成長の森 平成19年度から始められた成長の森の柵内は樹冠が取り払われて明るく、鹿害からも保護されて、植物達の勢力拡張の理想的な新天地です。この中の7区画を選び植生調査を進めています。これまでの調査では217種の実生種を記録し、その中にはトモエソウ、オトコエシ、ヒメハギなど、やどりき初記録が含まれています。心配していたよりも外来種が少なく、やどりきの健全性を示すものと安堵しています。毎年モニターを続け、植生遷移を記録する計画です。

モノレール 昨年冬に休憩棟を起点に桧岳まで、人工林を切り開いてほぼ一直線に長さ2,150m、標高差750mの林業用モノレールが設置されました。軌条の両側には突然陽光が射しこんだため各種の草木の種子が一斉に芽生え始めました。やどりき初記録種や、750mの垂直植生分布など興味をそえられるトレールです。



モノレール

以上、ご紹介した他にも、やどりき水源林には未知のフィールドが多数あり、皆さんの新しい発見を待っています。

ブナ帯 やどりき水源林を囲む雨山(1176m)と桧岳(1167m・ヒノキダッカ)を結ぶ山稜には元気なブナ帯が残されています。丹沢山塊のなかでも人里近くに残された数少ない貴重な存在のひとつです。写真のブナは雨山山頂付近の老樹で、寄山地のマザーツリーとも呼べる立派な樹形です。この一帯ではヒコサンヒメシャラ、ハナヒリノキ、ホツツジ、キンレイカなどの山地植物がブナとともに美しい山稜を作っています。植物班は長年にわたりこのフィールドの調査記録を積み重ねてきています。

希少種 水源林内には神奈川県レッドデータブックで絶滅危惧種に分類されている種が複数種生育しており、これらのモニターを毎年継続実施してきましたが、昨年からはコドラートを設定して定量調査に着手しました。今回、皆さんのご尽力で＜公益法人＞日本フラワーデザイン協会の助成金を受けることができましたので、今年度(H23年)からは希少種保全へ向けた更なるレベルアップを期しています。

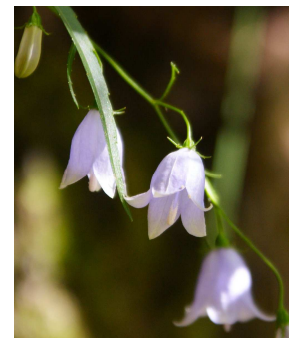


希少種調査中の植物班

秦野峠林道 やどりき水源林の南端を劃し寄大橋から林道秦野峠まで5kmの幹線林道です。杉の沢左岸の南斜面を削って作った車道の山側法面は日当たりも良く豊富な植生が見られます。リンドウ、イワシャジンなどの草花、アケビ、アオツツラフジなどのつる性の林縁植物が競い合っています。谷川側は切り立った崖のため高木類の樹冠を上から見たり、冬芽や花、葉などを手に取って観察したりすることができます。



アオツツラフジ



イワシャジン

写真提供：黒澤 隆氏・(広報部 M・モノレール/アオツツラフジ)

やどりき森の案内人 動物班 *痕跡で感じる森の仲間たち(哺乳類)*

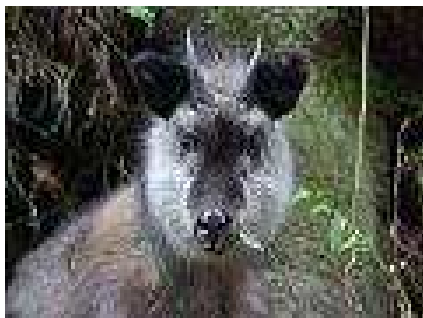
動物班班長 波多野 慶

やどりき森の案内人動物班は毎月1回活動を実施しています。毎回、林道コースやAコース、Bコース等を歩きながら哺乳類、野鳥、昆虫、両生類や爬虫類等を観察し記録を綴ってます。今回はやどりき森の案内人を対象とした勉強会を12月5日、動物班メンバーを講師として行い9名のインストラクターが参加しました。よりレベルアップした森の案内人になられることを望みます。

哺乳類 やどりき水源林では、多くの野生動物が活動する痕跡を見つける事が出来ます。最も見つけやすいのは鹿です。食痕、糞、足跡や木の幹に付いた角の研ぎ跡など様々です。また天然記念物のニホンカモシカを目撃や大型哺乳類熊の痕跡もやどりき水源林周辺で見られ、以前、水源林内で熊を目撃した動物班メンバーもいます。その他、たぬき、アナグマなどの小型哺乳類はセンサーカメラで撮影し今回の勉強会の資料として活用しました。

ムササビとモモンガ 勉強会は実際のフィールドでの樹洞観察を行いました。穴の径が8cm程度でかじり跡があるようであれば、ムササビの可能性あります。ムササビはその強靱な歯で樹洞の出入り口をかじって大きくすることがよくあります。一方、モモンガであれば樹洞の入り口はもっと小さな穴で利用します。彼等は自ら穴を削る事はほとんど無く、キツツキ等が開けた穴の大きさをそのまま利用します。

食痕についても特徴がでます。モモンガはとても器用に食材を掴むことが出来ます。木の実等をしっかり手で掴み食べます。樹洞周辺や餌場では、杉の実の食べ残しを見つける事が出来ます。一方、ムササビはとても不器用で、葉っぱを大雑把に掴むと口が届く範囲でかじりつき、食べきる前にポトリと落としてしまう事が多いようです。左右対称に欠けた葉っぱやハート型に穴の開いた葉っぱはムササビの食痕の可能性あります。こうした手がかりを元に樹洞の利用者を推測します。



天然記念物・ニホンカモシカ



シカ

獣(けもの)道 野生動物は、林の中で一定のルートを通り道として利用しています。山の神の左手の枯れた沢筋の先に獣道があります。ここではかつて動物班がセンサーカメラを設置したこともあります。

獣道は複数の動物が利用することが多く、この獣道でたぬきとアナグマがセンサーカメラによって違う時間帯に撮影されていました。又、鹿の痕跡もあり沢筋から林道へ出る木の幹には、大きな鹿の角の研ぎ跡が見られます。

観察しやすい樹洞について

やどりき水源林では多くの樹洞が観察できます。こうした樹洞は樹木としては内部が腐っている場合が多く林業的には伐採対象木となってしまいます。



ムササビく〜ん!

しかし、やどりき水源林内で暮らす様々な生き物が利用する樹洞をある程度残して行けば生物の多様性を保つのに役立ちます。また、私たちの観察ポイントにもなるので自然の理解も深まります。樹洞の中で最も観察しやすい位置にあるのは寄大橋を渡ってゲートを抜けた左側の樹洞。ほぼ目線の高さで安定した林道から望め、双眼鏡でしたら穴の中まで見ることができます。

森林文化講演会報告

社叢（鎮守の森）と企業の森の共通性と森のすがた 講師：東京農業大学教授 濱野 周泰氏

平成22年11月7日（日）13時半～16時 桜美林大学PFC



森林文化部会では、H21年度に続き講演会を企画、会員以外にも広く一般の方の参加を募り開催に向けて奮闘をした。参加者は81名（会員49名・一般32名）で連続（H21、22年）で参加して下さった方も多く講演会開催の目的は達せられたと感じている。

今回講師にお迎えした濱野周泰氏は、昨年（H22年）3月10日に大風で倒れた鎌倉・鶴岡八幡宮の大銀杏を再生するためにご尽力されている現役の大学教授で、多方面で自然環境保全の活動をされているため、超ご多忙の中を調整してやっと実現した講演会である。

H21年度同様、この森林文化講演会には神奈川県、相模原市、神奈川森林協会、（財）かながわトラストみどり財団、（財）相模原市みどりの協会から後援をいただいた。

国土の66%が森林（土地の利用に恵まれない所）である日本だが、植物の成長に好都合な気温の上昇と降水量の増加が同調していて、樹木が大きく成長する条件が整っている。また日本は変化に富んだ森がある。

「亜熱帯から亜寒帯」の気候、「平地から高山」の地形気温が樹木の分布を左右するなど、様々な森のすがたがあることが理解できた。森の働きにおいても、経済競争をすると負けてしまうが、第一次産業における物質循環の要であること、森の災害、劣悪環境からの保安機能があること、森の景観が観光資源として間接利用されるなど話された。森づくりについても、森と関わるには森（樹木）の生活時間で考えることの大事さを話された。森に人が関わらなくなると自然環境に応じた極相へ進むこと、人が関わらない禁足の森としてその地域に即した植物が生育している森が社叢（鎮守の森）であること、人の関わりで極相への時間を短縮した森が明治神宮の杜（*）であることなど、プロジェクターで写真や図を示して説明して頂き納得できた。（*）森：木立が多い。

杜：閉ざされた森と解説された。

参加者の多くが関心のあった都市の森については、共通の価値観を持ち、森に関わる活動を通して子供たちに感動を与え、子供の感性を育て、人も生態系の一員であることの認識を育てるなど私たちの活動の参考になるお話であった。また企業の森については、社会的責任として森の造成や整備を

行っているが企業の目的は営利であり業績が悪くなれば撤退するので短い目でしか森を見てないと話された。

自然環境に沿った森づくりの計画では、土地のそのままの地形を利用した森づくりや土地の生育担保能力と土地（環境）に適合した樹木による樹林再生など実践例を示しながらお話いただいた。

質疑応答では、鎌倉・鶴岡八幡宮の大銀杏について、適期を過ぎた萌芽更新の方法について、などの質問に答えていただいた。

講師自らの体験から得た貴重なお話が、私たちのこれからの活動の参考になればと願う。この講演会にご協力いただいた講師、参加者の皆様、桜美林大学、後援をいただいた各機関に感謝の気持ちでいっぱいである。

講演の内容（講師作成のレジュメより）

はじめに

- 1 日本は森の国
- 2 気候帯に応じた森のすがた
- 3 人の生活と森の働き
- 4 人の関わりと森づくり
- 5 社会的資本としての森
- 6 継続可能な資源としての森

おわりに



私の認識

野鳥その84

高橋 恒通

今月もキジ目ライチョウ科の留鳥、エゾライチョウ（漢和名：蝦夷雷鳥、英名：Hazel Grouse、体長L=36 cm）についてご案内しましょう。

体色はライチョウの如き夏羽、冬羽の変化が無く周年同一色であります。

成鳥♂は頭部から後頸、背面まで褐色で頭頂は同色の短い冠羽があります。喉の所が黒褐色で、これを囲む様に太い白線と翼は褐色地に白線が入り共に良く目立つポイントになっております。これに加えて目の上に赤色の肉冠があり、そのすぐ後方に白斑があります。成鳥♀に冠羽は無く、喉は褐色地に白色が混じり、これを囲む白線も♂ほど太くありません。赤色の肉冠もありますが、♂より目立ちにくい様に思えます。

♂♀共に胸前から下面にかけては濁白色地に褐色が鱗状斑になって美しい模様を呈しています。この鱗状斑を柄模様にしたネクタイを作れば、



エゾライチョウ

茶系統の背広やベージュ色のブレザーなどには良く似合って売れるのでは・・・等と余計な考えが湧いて来る位に印象的です。

エゾライチョウの棲息域は、我国では名前の通り北海道のみです。所謂、ブラキストンライン

（津軽海峡線）—生物分布境界線—指標生物と言われている。ヒグマ、シマリス、ナキウサギ等と同じく分布南限、即ち地域限定の野鳥です。40年位前までは日本最大のキツツキのクマゲラもこれに含まれていましたが、白神山地でクマゲラが確認された時点からクマゲラは外されたと認識しています。

逆にヤマドリ、ニホンザル、ニホンカモシカ、ツキノワグマ、ヒミズ等は下北半島までが分布北限生物と言われ北海道には自然の状態では棲息していません。

エゾライチョウの世界地図上の分布は、朝鮮半島、シベリアからヨーロッパに及んでおります。

棲息地環境は、寒帯性針広混交林、平地から山地の針葉樹林、特に流れに沿った藪の多い場所を好むそうです。

行動は♂♀又は家族で群れて周年生活すると言われている。採食は地上で昆虫類の幼虫や植物の種子、芽、樹上で木の実や芽も摂ります。警戒すると飛び上がって横枝に止まり枝の上を歩く事も目撃されています。

繁殖期には、鋭く口笛の様な声で「ピー ピー ピッピョッ ピョピョー」と言う鳴きをするそうです。

エゾライチョウはキジ類共通で歩行が主で飛翔は得意ではありませんし、動きも俊敏とは言えません。

エゾライチョウは不幸にして狩猟鳥として認められております。これに加えてエゾライチョウの肉は大変に美味しいと言う不幸が重なってまして、猟期にはハンターの恰好の標的になっているのが現実です。

日本野鳥の会などは随分前から狩猟鳥から外すべく申し入れの働きかけを行っていますが、キジ等と同様に養殖したのを放鳥して、棲息数も増えるから・・・と一向に埒が開かないのも事実なのです。

私は若い頃から銃と虎挟みの使用は、特例的に許可されたケースを含め全面禁止にすべきものと思いつけてます。特に銃の場合、毎年の猟期に我国の山林原野に撃ち撒かれる夥しい数の鉛の弾は、自然環境に対して悪影響を及ぼし続けているものと強く認識しております。

<参考資料>

◎日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7、写真・解説

/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉

解説（鳴き声）/上田秀雄、山と溪谷社。

◎鳥630図鑑 財団法人 日本鳥類保護連盟。

◎フィールドガイド 日本の野鳥、野鳥ブックス②

高野伸二著、(財)日本野鳥の会

◎エゾライチョウのイラスト 春

活動短信

11/8～11/28

自然観察しながら仏果山・高取山登山

日 11月8日（月）晴れ

場 愛川ふれあいの村・仏果山・高取山

参 横浜市立浅間台小学校4～5年生 99名

教師他 10名

イ L堀江④、友谷①、島岡③、高崎④、佐藤⑤、滝澤⑤、武者⑦、久保⑧、松村⑧、内野⑨

秋晴れの登山日和。出発前の2つの約束は、安全第一でみんなが無事に戻ってくること。そして自然を感じ楽しむこと。私の担当した7班には動物になったつもりで五感を働かせ、さらに第六感も働かせて自然を発見しながら山登りをしてみようと呼びかけた。5年生は昨年雨で登山途中で引き返した経験があった。

歩きはじめてすぐから「これ何ですか」と質問攻めにあった。森林や人工林のことも質問から説明へ展開することが多かった。

自然に興味を持ってくれたようだ。穴をつつてムカデを見つけた子、動物の食痕のあるオニグルミを拾い集めた子、草や木の実の宝物をいっぱい集めて「楽しい」を連発した子、森の暗さや土壌の柔らかさを感じた子、林道の説明をしたら、花が咲いていたリンドウの名前の由来を尋ねた子、リスを発見した子、子どもたちが主役の本当に楽しい登山だった。

全員無事に下山後、滝澤さんが熊の毛皮や頭の骨や糞などを示して「熊の話」をした。子どもたちは真剣に、興味深そうに話を聞いていた。

自然を体験させる取り組みを長年続けている浅間台小学校はすばらしいと感じた。

(記 9期 内野)

県民参加の森林づくり活動(枝打ち/除伐)

日 11月11日(木) 晴れ 8時40分～14時
場 箱根町二子山県有林
参 一般応募者 60名
財 高橋課長、永島、鳥海、**看** 廣島
県 石坂、山崎、山口、
イ L黒澤⑧、石原③、善波⑥、渡部⑦、三浦⑧、鈴木敏⑧、佐藤昭⑧、飯澤⑨、篠原⑨、村井⑨、杉崎⑩、**研** 石原⑧、牧野⑩、松本⑪、

快晴に恵まれバスは紅葉の箱根を駆け登りました。現場は90年を経たヒノキが切り出され広々とした山麓の上部に見えるヒノキ2,700本とヤマボウシ、クヌギの混交林です。オリエンテーション後、現場まで期待と闘志を胸に山登りです。作業は4班に分かれた枝打ちが中心になりました。初めての方も丁寧なアドバイスでコツを掴んでからは、ドンドン斜面を登って行きました。皆さん黙々と熱中、本当に森が好きなんだなあと感じました。仕上げたヒノキに明るい陽が差し込むと皆嬉しそうです。

汗ばんだ体に一息入れた時、眼下に広がる紅葉とその先に輝く海、江ノ島！絶景です！！全部の枝打ちは無理でした後は次回のお楽しみ。無事下山し、陽だまりの昼食は美味しそうです。

リーダー・黒澤さんのミニ講座は国立公園の中に於ける森林公園をテーマに箱根の変遷が紹介され好評でした。箱根を毎年続けてほしい！皆さんの声でした。

(記 9期 篠原)

間伐&リースづくり

日 11月13日(土) 晴れ 9時半～13時
場 やどりき水源林パートナー林
参 (株)日立電子サービス社員と家族34名
 (大人15名、子供13名 スタッフ6名)
イ L斉藤⑥、落合③、伊藤⑦、

社員の森林保全活動として間伐とリース作りを行った。当日は成長の森見学会とその他のイベントもあり、場所の関係でリース作り(大人6名、子供7名)は落合さんの指導で休憩棟広場で葛や松ぼっくり、球果、その他飾り物を個性豊かに組み合わせ、なれない手つきながら上手に作り自慢げに持ち帰った。

間伐(大人9名、子供6名)は2班に分け樹高15m以上の杉の木を各班1本倒すのがやっとでした。豪快に倒れた樹木に喝采があがり周囲の明るさに間伐の意義も分かってもらえた。切った木はコースターや椅子用に丸太切りして土産に持ち帰った人もおり、リース作りを含め楽しみながら本日のイベントの目的が達せられたと思います。次期、森林インストラクターの養成講座に申し込みたいという方も何人かいて頼もしい一日でした。(記 6期 斉藤)

間伐体験

日 11月13日(土) 晴れ 10時～12時半
場 やどりき水源林
参 キリンビール(株)横浜工場 42名
県 自環保・水源の森林推進課 小司
イ L戸谷⑥、竹島③、鈴木孝⑥、鈴木碩⑥、辻村⑨、

参加者を乗せたバスが9時50分に到着。集会棟前の広場は「成長の森」見学会の参加者の集合となっていたので、我々は倉庫横の広場に集合して開会式を始める。キリンビール環境安全室長の挨拶とインストラクターの紹介の後、インストラクターが本日の作業内容を説明、参加者は5班に分かれてインストラクターの誘導に従って間伐場所へと向かう。

間伐場所はBコースの径路に沿った上面の斜面で樹高の高いヒノキが対象木なので、参加者の到着前にインストラクター全員で、「径路から離れた法面の上部」・「班間隔が十分に確保できる距離」をポイントに選木を行っておいた。

半数以上の参加者が間伐体験は初めてで、斜面でのノコギリの扱いに慣れてないのと足場の確保が不安定なので及び腰となっていました。ロープで木を引き倒した時の地響きには興奮していました。

各班2～3本の間伐を行い、倒木の枝払いと玉切りで林内整理をして間伐体験を終了しました。

皆さん怪我も無く無事に終える事が出来ましたが、木が倒れて行く過程で木の上部が折れるアクシデントが1件有りました。木の上部が枯れていたようです。幸い、参加者は間伐作業の安全行動に従って伐倒方向の反対側に離れて避難していましたので安全でしたが、上部が折れたのには驚きの声を発していました。

安全行動の遵守は本当に大切です。

(記 6期 戸谷)

神奈川トヨタ・プリウス森木会の森で間伐体験

日 11月20日(土) 晴れ 9時半～12時半
場 やどりき水源林パートナー林
参 三井住友海上(株)の社員とその家族19名
 (大人16名、子供3名)

イ L山崎⑦、斉藤⑥

神奈川トヨタ プリウス森木会は自然環境保護活動の一環として森林保全活動に“何故、間伐が必要なのか?”を理解するために実際に森林を見て間伐体験を実施した。

参加者19名は定刻より少し遅れて到着。早速、水源林の概要や間伐の意義、技術等説明して現地へ移動した。当日予め下見と選木を済ませていたので即、作業にかかった。樹高20m位のヒノキも事前の掛かり木処理で豪快に倒れ、間伐の技術の難しさ、体力の必要性を体験した。1班1〜2本倒し時間的に余裕があったので、お土産にコースターを作り終了。午後のイベント、バーベキューへ移動した。参加者の皆様ご苦勞様でした。筋肉痛が心配です。(記 6期 斉藤)

ふじの体験の森「やませみ」森林の間伐

日 11月25日(木) 9時半〜14時半
場 相模原市緑区澤井 ふじの体験の森
参 相模原市立大野台中央小学校 5年生
 生徒 144名、教師 8名
財 古館 **スタッフ** やませみ職員 篠原他4名
イ L佐藤⑤、高橋③、渡辺③、宮本④、斉藤⑥、鈴木⑥、須長⑥、塩谷⑦、有坂⑧、三浦⑧、内野⑨、小沢⑨、青木⑩、松山⑩、鳥飼⑪、

今年度4月から開設された「やませみ」での間伐作業で、およそ30年生のスギ・ヒノキの伐木・枝払い、玉切り、コースター作りを約2時間かけて実施した。バスで到着した生徒達にヘルメットと道具を配布し、10分ほど離れた間伐作業地に移動そこでリーダーが間伐の意義やこの森が間伐を必要としていること、作業時の安全注意などを説明、指定の場所に移ってからそれぞれ班毎に作業方法、鋸の使い方など説明を加え作業にかかった。各班1本であるが細くても背が高く全員が協力しないと大変な作業であったが、各班大人が2名いたことで安全にも心配りが行き届いた上、時間的なゆとりもあってかインストラクターとの会話も交えて楽しそうに作業が進んでいた。今回は生徒達が事前に質問事項を沢山用意してくるような熱気のある体験学習であった。

反省会では財団準備の枝打ち鋸の数が不足であったが、生徒達の一体感のために全数揃えておきたい。また、間伐鋸は班の共用品として個人持ちにしないほうが良いとの意見があった。なお、今回は総括リーダーがフリーで全体を見て歩けたこと、財団、やませみ職員もそれぞれ1名が全体を管理できる体制であったことは活動の円滑化だけでなく安全の面でも好ましい環境であったと言える。(記 5期 佐藤)

パートナー林活動 自然観察&間伐体験

日 11月27日(土) 晴れ 10時〜13時
場 山北町世附(森の仲間たちのフィールド近隣)
参 富士通エフ・アイ・ビー(株) 35名
県 自環保 内田
イ L川又⑥、竹島③、須長⑥、山崎⑦、後藤⑩、一重⑪、

9時過ぎに現地に集合し、パートナー林内で、作業内容・スケジュール・分担等について意識合せを行った。

『富士通エフ・アイ・ビーの森』は2010年7月にパートナー林契約し、初めての活動として、間伐体験と自然観察を計画しました。貸切バスで35名が参加。杉本社長も参加され、環境保全に対する意気込みを感じました。秋晴れに恵まれ、紅葉も見ごたえがありました。10時50分に到着して、すぐに看板の前で記念撮影があり、間伐方法の説明や器具など使い方、安全教育を行い2グループで各々1本ずつヒノキの間伐し、枝を落とし、2m程に玉切りして、土止め固定しました。



自然観察グループは、『富士通エフ・アイ・ビーの森』から世附キャンプセンターを右手に見ながら、森の仲間たちのフィールドまでの500mを景色を楽しみながら、観察会を行いました。

最後に森の模型を使い、管理された森林の保水力について説明し、水の流れを体感していただきました。ヒヤリハットも無く無事に行事を終了しました。

(記 10期 後藤)

「平成22年度 川崎市里山ボランティア育成講座」

―入門編― 第五回

日 11月28日(日) 9時半〜16時半
場 高津市民館(JR南武線溝の口駅前)
参 一般市民による講座メンバー15名(うち子供5名)
 他一般市民 約100名(見学のみ含む)
スタッフ 川崎市公園緑地協会ほか7名
イ L清水⑧、井口かおる⑧、小林⑩、金森⑩、

計六回講座の第五回目。川崎市主催の「2010花と緑の交流会」に合わせてクラフト教室を実施した。講座メンバーの参加は時間内であればいつでも出入り自由とした。材料は竹や木の枝を予め用意し、森の鉛筆、竹ぼっくり、ブンブンゴマ、竹のMy箸、竹トンボ、竹の桶などを作成する。見本をヒントに自分なりにアレンジして加工する。難しいと思われる部分はインストラクターが手助けしながら作品を完成させた。講座メンバーは昼食を持参し、時間いっぱい参加した。見本のモノを作り終えさらにオリジナルの作品を考えるメンバーもいた。また、交流会に参加の団体向けに鋸などの道具の手入れ方法を説明した。ヤニ取りスプレーの正しい使用方法と共にスプレーを配布した。交流会との併設であったため人が多く、終日賑やかであったが、怪我もなく、会議室を綺麗に清掃して無事終了。(記 10期 金森)

紙面の都合で11月23、27日、工藤建設様、日立電サ様、ルネサスエレクトロニクス様、日揮様、の活動短信は2月号に掲載いたします。

やどりき水源林 ミニガイド

12月のトピックス

12月19日(日)動物班メンバー6人でムササビ樹洞の夜間観察を行いました。今回は一つの樹洞から1匹出た後、さらにもう1匹が顔を出すハプニングがありました。

1月の水源林



やどりき水源林内祠にて1年の安全を祈念して山の神祭が執り行われます。(H22/1撮影)

「森の案内人」情報

●実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度(12月1月2月休止)

●集 合：水源林入口ゲート前

●内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ：(社) かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255

fax:045-412-2300

●ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

計 報

猪股雄輝 様 ＜2期—43＞

昨年11月19日、進行性大腸癌のためご逝去されました。長年会役員として、会発展にご尽力いただきました。有難うございました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。
(享年 53歳)

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送り先

＜①電子配信担当＞

森 義徳

〒232-0053

横浜市内南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784 Fax/ <株リコ

ー・森宛 045-590-1910>

Mail: myforest@yha.att.ne.jp

＜②メール・手書き原稿送り先＞

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax: 045-476-4112

Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038

横浜市青葉区奈良2丁目10-5

Tel/Fax: 045-961-6695

Mai: i_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信

〒194-0001

東京都町田市つくし野2-13-7

Tel/Fax: 042-796-6011

Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

原稿の締切は毎月20日です。

編 集 後 記

★PLT研修(プロジェクト・ラーニング・ツリー)を受講してファシリテーターに認定されました。参加型の環境教育プログラムを行ううえでのアトラクションが山盛りです。森林教室や森林ツアーで実践してゆきたいと思います。(金森)

★新年となった。生物多様性の会議も終わった。この生物から、私たちの健康をまもる薬がぞくぞく発見されている。現代社会、心の病人が増えている。ウサギが、ぴょんぴょんと飛び跳ねるような薬も生物から発見されるように祈りたい。ことしもよろしく。(鈴木松)

★広報初登場、9期水口さんの初トークです。「冬芽が初春どの様に芽吹いていくのかとても楽しみです。感動の発見あるかも！」(水口)

★21世紀も10年が過ぎましたが、懐具合が少々寂しくとも自然や心の豊かさをもっと感じられる年にしていきたいと思います。良い一年となりますように。(鈴木朗)

★おめでとうございます。今年も身心共に健康で広報活動を展開し、再来年の今頃は本誌担当をどなたかにバトンタッチできれば・・・と考えてますので、我こそはと言う方はご一報ください。大歓迎です!!一緒に編集しませんか。(村井)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒 価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

広報部：井出恒夫 (HP) 金森 巖

鈴木松弘 森本正信 森 義徳

鈴木 朗 上野潤二 水口俊則

～ 春 ～

自然再生活動報告会

丹沢が好きな方/興味をお持ちの方
丹沢について考えて見ませんか?

日時：1月22日(土) 13時～16時半

場所：厚木商工会議所5階・大会議室

主催：丹沢大山自然再生委員会事務局

問い合わせは(自然環境保全センター) 046-248-0323 (内線 299)

〆きり：1月13日まで

—入場無料—

プログラム

- 1、開会あいさつ
- 2、丹沢の市民参加と協働の経緯
- 3、活動発表
NPO法人みろくの会・県立ビクターセンター・かながわパークレンジャー・サントリーホールディング(株)
NPO法人丹沢自然保護協会
- 4、ディスカッション
- 5、閉会あいさつ